

欧州・アフリカの貨物盗難事情

欧州・アフリカで2018年に発生した7,617件の貨物盗難の情報を調査機関が収集し分析しました。損害額が判明しているのは2,772件のみですが、それでも合計2億2,600万ユーロに達するため、実際の損害額はそれより相当に大きな金額だと考えられます。本号では欧州・アフリカで発生した貨物盗難に関する情報をお伝えします。

1. 欧州の貨物盗難

まず国別の事故件数と事故場所、盗難品に関する情報をまとめてご報告します。

各国の行政機関や企業から提供されたデータを集計しているため、国別の件数を比べた際に、データ提供に協力的な国ほど事故が多発しているよう見受けられますが、実際には必ずしもその通りではないことにご留意ください。イギリス、ドイツ、スウェーデン、オランダ、ベルギーは特にデータ提供に協力的であった国です。



欧州・ドイツの道路を輸送中のトラック(イメージ)

国名	事故件数	最も多い事故場所	最も多い盗難品の種類
イギリス	2,364 件	無警備の駐車エリア(84%)	自動車関連部品(16%)
ドイツ	1,702 件	無警備の駐車エリア(89%)	自動車関連部品(14%)
スウェーデン	1,518 件	-(データ無し)	自動車関連部品(9%)
オランダ	568 件	無警備の駐車エリア(71%)	自動車関連部品(14%)
ベルギー	563 件	無警備の駐車エリア(98%)	日用医療品(12%)

一般に、サプライチェーンの中ではトラック輸送時の休憩中が一番リスクが高く、貨物の安全な輸送には、トラックドライバーが安全に休憩できる駐車エリアの確保が重要であることがわかります。

また、月別に集計すると、2018年は10月、11月、1月に多くの盗難事故が発生していることがわかりました。消費者の購買意欲が高まるクリスマス商戦と翌年の新シーズンに向けた在庫を確保するために、貨物の輸送量が多くなることが原因と考えられます。この傾向は、2017年においても概ね同様でした。

曜日別に集計すると、火曜日、水曜日に最も被害が多く、時間帯では、当然のことですが、ドライバーが休息している夜間に多くの損害が発生していることが判りました。犯行手口としては、抜荷が41%、トラックの荷台カバーを切り裂いての盗難が37%でした。

2. アフリカの貨物盗難

アフリカ各国での貨物盗難対策に関連する情報をお伝えします。

(1) 装備への対策

南アフリカのある警備会社は、現金輸送中の盗難対策に多額の投資をしています。シンジケートが爆発物や妨害電波を使用して強奪してくるため、トラック自体や応答システム等のハード面を強化することで、強盗と対峙しています。

(2) マーケットへの対策

盗難品が売買されるブラックマーケットを摘発した国もあります。例えば、ウガンダでは、中古品市場・倉庫を含めたインカートリッジのブラックマーケットを摘発し、販売予定であった盗難品を押収しました。また、ナイジェリアでは、違法に流通している無認可の薬品が摘発されました。マルタの通関では、カンボジアからリビアへ輸送中のコンテナから大量のタバコの密輸品が発見され、その流通を未然に防いだ、という事例もありました。

3. プレグジットの影響

イギリスの EU 離脱も貨物の安全輸送に影響を与える可能性があります。2020 年 1 月 9 日、イギリス議会下院は EU からの離脱に必要な関連法案を賛成多数で可決し、上院での審議を経て、EU 議会の承認を得たうえで、今月末にイギリスは EU から離脱する見通しです。イギリスの貨物の輸出入は混乱が予想されます。医療品は、不測の事態に備え優遇措置が取られる見込みですが、消費の 1/3 を EU からの輸入に依存している農作物は一時的に品薄となる可能性があります。農作物は、工業製品と異なり、シリアル番号等で管理されていないため、盗難に遭いやすく、今後も注意が必要です。

4. セキュリティサーベイのご案内

弊社では、貨物盗難事故防止に関するセキュリティサーベイを行っております。ご相談はお気軽に弊社営業担当までご連絡ください。



【出典】 『Cargo Intelligence Annual Report』, SENSITECH

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」



マリンピックス バックナンバー